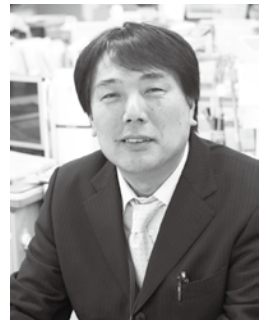


受けましょう!

子どもの予防接種



保健医療課医療予防係長

え ぎ けい すけ
恵 木 啓 介

子どもは元気にすくすくと育つてほしいというのが親の願いです。しかし、子どもは抵抗力が完全にできあがっていないため、よく病気になることがあります。さらに、症状が重くなることもあるので、病気になるかからないように守ってあげる必要があります。それには予防接種が効果的です。

「子宮頸がんワクチン」「ヒブワクチン」「小児用肺炎球菌ワクチン」の接種が始まりました!

1月11日から「子宮頸がんワクチン」「ヒブワクチン」「小児用肺炎球菌ワクチン」を公費で接種できるようになりました。これらのワクチンは、対象年齢になる方で希望すれば接種することができます。

子宮頸がんワクチン

12月号でもお知らせしましたが、子宮頸がんは「発がん性HPV」というウイルスの感染が原因で引き起こされます。このワクチンは、すべての発がん性HPVの感染を防ぐものではありませんが、子宮頸がんの70%程度を予防できるといわれています。

ヒブワクチン

脳や脊髄(せきずい)を覆う髄膜(ずいまく)に細菌やウイルスが感染して起こる炎症を「髄膜炎」といいます。この半数以上が「インフルエンザ菌b型」が原因といわれ、略して「Hib(ヒブ)」と呼ばれます。ワクチン接種で、細菌性髄膜炎や敗血症などを予防し、4回接種するとほぼ100%免疫ができます。

小児用肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌は、菌血症、中耳炎、細菌性髄膜炎の原因となる細菌で乳幼児の鼻咽頭に存在します。

対象となるワクチンと接種スケジュール

ワクチンの種類	対象年齢	接種開始年齢	接種スケジュール
子宮頸がん	中学1年～ 高校1年	—	初回接種から1カ月後、 6カ月後の計3回接種
ヒブ	生後2カ月～ 5歳未満	2～7カ月未満	1回目接種から4週～8週の間で2回目 2回目接種から4週～8週の間で3回目 3回目接種から概ね1年後に4回目
		7～12カ月未満	1回目接種から4週～8週の間で2回目 2回目接種から概ね1年後に3回目
		1歳～5歳未満	1回のみ
小児用肺炎球菌	生後2カ月～ 5歳未満	2～7カ月未満	1回目接種から27日以上の間隔で2回目 2回目接種から27日以上の間隔で3回目 3回目接種から60日以上の間隔で4回目
		7～12カ月未満	1回目接種から27日以上の間隔で2回目 2回目接種から60日以上の間隔で3回目
		1歳～2歳未満	1回目接種から60日以上の間隔で2回目
		2歳～5歳未満	1回のみ

接種期限は、平成24年3月31日までです。

接種に関する問い合わせは保健医療課☎0824-73-1155または各支所担当室まで。

このワクチンは、肺炎球菌による重い感染症を予防することができます。

